



# ステキな大人にたくさん出会おう

(特活) せんだい杜の子ども劇場

代表理事 斎藤 純子



皆様、ご家族お揃いで佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は沢山のご支援を頂戴し、誠に有り難うございました。本年もこれまで以上のご厚情を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

まず、昨年末に開催しました2017年度定期総会では最終決算をご報告できず大変申し訳ございませんでした。12月22日に監査頂き、その後諸官庁への書類提出等も済みましたことをご報告いたします。

2017年を振り返りますと、社会から沢山のご協力を頂いた一年でした。

子育て応援フェスティバルでは企業協賛金と広告料を、宮城県共同募金会による「みやぎチャレンジプロジェクト」ではママパパラインへ対して市民の皆様より寄付を頂戴しました。思いを伝える機会を与えて頂いたこと、そして思いに共感してくださった社会にNPOとしてやり甲斐を感じ、その上で、持続可能な事業としてしっかりと遂行していく責任があることを身にしみて学びました。

もう一つ、人と人とのネットワークが子どもたちと子育て中のママ&パパにとって沢山の出会いに繋がったことです。杜の子まつりや子育て応援フェスティバルなど本体事業では、思いに共感した諸団体や個人が子どもたちにミニワークショップを体験して貰うコーナーを担っています。「その道の達人」が会話をしながら、子どもたちに作る術を教えている光景は微笑ましく、双方ともリラックスする中、真剣な眼差しで子どもたちは最後までやり通します。子育て中のママ&パパが熱い眼差しで講話を聴いています。その達人たちは、榴岡&新田児童館そして昨年4月より運営を受託している富谷市の2児童クラブでのワークショップや行事にも協力頂いております。

前月号の巻頭文を執筆頂いた齋正弘氏は、ご承知の通り宮城県美術館で探検ワークショップを長期にわたり実践され、美術や自然体験を通して子

どもたちの心を虜にし、あっという間に信頼関係を築き、物の見方や創造力を広げる達人です。昨年は4児童クラブで計17回のワークショップを行いました。

東日本大震災後毎年ピアノ演奏を聴かせてくれるピアニスト、脳科学研究の第一人者や小児科医師など専門家として雲の上のような存在の方々協力してくれます。子どもからの質問に真摯に対応し、また子育て中のママたちの学ぼうとする気持ちに寄り添い不安に応え、子どもからママ&パパの気持ちを晴れやかする達人たちです。

ほんものに触れる事の意義、社会の第一人者や達人が思いを伝えたいという気持ち、そこから学ぼうとする子ども&大人の存在、このトライアングルを繋ぐ役割をこれまで以上に担っていかうと思います。その出会いから興味や関心が引き出されたり、生業から智恵を授かったり、創造力や発想力が膨らんだりするに違いありません。やってみることにチャレンジする気持ちが生まれると確信しています。

AIやメディア機器が高速で発展し続ける社会だからこそ、「うお〜、面白い大人が沢山いるじゃないの!」と若者や子どもたちにも言って貰いたいです。人と人が出会い、そこから新しい物が生まれていく循環を、生身の人間の息づかいやオーラから直接感じとる瞬間を、私たち大人は意識的に作っていく必要があると思います。大人は自分たちの責任と自覚をし、それぞれの持ち場で何ができるかを考え実践していく!大人たちが社会的肩書きを越えてスクラムを組むくらいの気概を持って実践していく。そんな広がり社会全体で作って行けたら良いなあ。いや!みんなで作って行きましょうよ、子どもたちの未来のために!

